

モデルケース によるプラン(例)

平成28年3月

社会的養護における
「育ち」「育て」を考える研究会編

モデルケース(例)

基礎データ：児童養護施設A学園入所時点(平成26年10月3日)

氏名／性別	そだち 研(けん)／男児
生年月日	平成12年 9月15日生
年齢／学年	14歳／中学2年生
身長	155cm
体重	40kg
主訴	万引き・窃盗・不登校
初発年齢／非行	6歳／金品持ち出し
IQ	言語性86、動作性107、全検査90(ほぼ年齢相応の知的水準)

※ 家族について、生育歴等は「ケース概要票」(P153～156)を参照ください。

(入所時の状況および入所の経緯)

・現在中学2年生。身長体重は同年齢にしては低い方である。やせ型色白で鋭い目つきをしており、髪型は茶髪で流行のカットである。

・人と話し出すとささいなことで怒り出すことが多い。腕には根性焼きの跡が数カ所あり。寝付き寝起きが悪い、整理整頓ができないなど身辺的自立が不十分。

・甘い物が好きで未処置のう歯もあり、かなり偏食好みである。

・不安が強く、新しいことを始める時には、人がやったのを見てから自分も取り組むような面あり。行事などの前には腹痛などの症状を呈することが多い。

・小学校のときに、市の代表で野球選手として選ばれたことがあるなど、去勢をはり誇張するような言動あり。

・スポーツ面は得意であり、球技は全般的に上手である。ただし、勝敗にこだわり、アウト・セーフの判定などでトラブルになりがちである。

・学校は休みがちである。学校場面では、落ち着きがなく、集中力に欠けているために、内容がわからない授業では、学習意欲はない。教室を出て行くこともあった。ただし体育は得意であり、集中してできる。

・小学校低学年の時に人にすぐにちょっかいをかけることでいじめを受けたことがあり、人との付き合いについては苦手意識を持っている。

・行動上の問題については、6歳の時の実母がうつ病で入院した頃から、実父の財布から小銭を取る。買っていないおもちゃを持っていたので、聞いたところ正直に話したので発覚する。

・本児7歳時に実母が死亡。その後から持ち出しが増える。

・小学2年生になってからは友人宅からお金を盗むといった行動が見られるようになる。問題が発覚すると、実父の対応は、大声でしかりつけたり、殴ったりするものであった。

・実父が継母と再婚すると、スーパーマーケットやコンビニなどからの万引きもするようになり、触法行為で警察に補導される。その後、児童家庭支援センター、児童相談所も関わるようになる。

・在宅による継続指導を行うものの、実父・継母による虐待はなくなり、本児の万引き・窃盗もエスカレートしていき問題性が深まってきたため、一時保護し、その後児童養護施設への入所となる。

(入所後の経過)

※ 佐藤(担当ケアワーカー):男性(38歳、15年目)、中高生男子ユニット(9名)、

生活の方は、同ユニットの子どもや職員に助けられながら、なんとかやっている。

野球の強い高校への進学を希望しており、3学期から野球部に入部して好きな野球に打ち込む。たびたび自慢や誇張した言動等で周囲を混乱させ、結果孤立してしまうようなこともあるが、3年生になると野球部監督が担任になったため、頑張っレギュラーを獲得するよう鼓舞する。すると、本児も俄然頑張りをみせ、見事にレギュラーを獲得し、夏の大会(中学生最後の大会)に出場する。

野球部引退。夏休みに入り、生活がくずれないように、かつ受験も見据えて学習塾に行かせる。しかし、それが裏目に出てしまい、生活が荒れ始める。昼夜逆転し、5日間ほど無断外泊したときもあった。

2学期に入り、不登校が心配されたが、なんとか学校には行き始める。

9月15日、本児の誕生日のお祝いをした翌日の夜、夜勤だった佐藤に、実母が生きていた頃に誕生日会をしてくれた思い出を話し始め、急に悲しくなってきたと気持ちを吐露したことをきっかけに、佐藤から「家族のことや進路について話そう」と声をかける。本児は、素直に了解し、佐藤と数回にわたり実母のことについて話をする。その中で、実母の死を自分の責任(実母がうつになったあと、金品持ち出しなど悪いことをしたことで、余計に実母の病状を悪化させてしまった)だと感じていること、また実父からのDVが実母を死に追いやったという怒り、継母を受け入れる気持ちになれないことなどが語られ、佐藤は「ここを扱わないと研が前に進めない」と感じ、児童相談所に連絡し、実父とのやりとりを始める。直接会って話したいと佐藤は希望するが、継母の拒否感と、保護者の児相への不信感から外でのやりとりは難しかったため、実父の仕事が早く終わる日に施設に来てもらって話をする事となる。

9月の進路調査では、本児は「どうせ家に帰れないから、どこでもいい。(施設内の高校生の)D先輩と同じ高校でいい」と話す。

平成27年10月初旬、実父が来園。実父は、本児が実母の死についてそのように考えていたことは意外だったと語り、「辛い思いをさせていたのは親の方で、研には責任はない」と言う。佐藤から「研君にその話をしてもらえませんか」頼むと、実父は了解し、実母の命日が10月25日であることを話す。その前に本児と実父の面会を実施することにし、佐藤から児童相談所へ報告を入れる。

実父と本児の面会では、最初は構えていた本児も、実父から実母の死は本児の責任ではないことを伝えられると、びっくりした様子で表情もゆるむ。実母の命日に合わせて墓参りに行く約束をし、10月27日(日)に佐藤が本児を連れて行き、現地で実父と合流し、実母の墓参りをする。

実父とのやりとりや、実母の墓参りを機に本児は少しずつ表情も柔らかくなり、イライラして人に当たることも減ってくる。11月に入り、受験に向けて進路のことも考えていく必要があるため、佐藤と今後の話を始める。本児の希望を改めて聞くと、以前よりも真剣に考え、入所当時に行きたいと言っていた第1希望の野球の強い高校は、学力不足であきらめると話し、施設から片道1時間はかかる隣の市の高校の名前を挙げる。野球はまあまあ強い高校ではあるが、立地的に家に近い高校であることから、担当ケアワーカーが「家に帰りたくなってきたのか」確認すると、実は実父と会ってから本児の気持ちが揺れ始めていることが語られる。

佐藤から児童相談所の担当CWに家族の状況調査を依頼したところ、実父は仕事で家を空ける日が多いが、継母と弟、異母妹の3人でなんとか生活出来ている様子だと報告がある。児相CWから電話連絡があったことを、継母が実父に話したところ、かねてから継母に内緒でしか本児に連絡できないことをなんとかしたいと考えていた実父が、継母にそのことを打ち明け、本児も成長してきているので面会くらいはしてやろうと説得し、12月下旬に実父、継母、弟、異母妹と本児の入所後初めての面会を施設で行う事となる。

面会時は、久しぶりに兄と会った弟、異母妹と一緒に遊んでとせがんだこともあり、和気藹々と過ごす。本児と継母が会話をすることはほとんどない。本児、弟、異母妹は別室で他のケアワーカーと過ごしてもらい、その間実父、継母と佐藤とで今後のことについて話をする。本児の進路希望について伝え、「研君の希望としてはいつか家に帰りたい」と思っていると話すと、急に継母の表情が曇り、面会室から出て行ってしまふ。実父には「すぐに引き取りという話ではなく、まずは施設から高校に通い、面会や外出を重ねながら、可能性を探っていきたい」と伝えると、実父も了承し、卒業式には継母も連れて家族で参列することも了解する。

本児が高校に合格したため、児童相談所にお願ひし、地元に近い高校進学を機に本児がかつての不良グループとまたつるんでしまうことも考慮して、要保護児童対策地域協議会を開催する。卒業式には、家族が揃って参列し、本児もうれしそうに家族写真を撮る。その後家族で外食して帰ってきた(後日、継母から学園に手紙が届く。本児の受け入れに前向きにならなければいけないと継母も考えている。暴力のない生活を求めている。)

各プランの策定(作成)時期(モデルケースの例)

年 (学年)	月	できごと	わたしの育ちプラン (子ども)	親子未来プラン (保護者)	子ども育ち・育てプラン (養育者)			
					子ども	家庭	地域社会	
H26 (中2)	10月	10/3入所	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 継母が拒否しているの で、プランの実施はし ばらく先 </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> アセスメント が重要！ </div>	情報収集(児童相談所等) アセスメント(子ども家庭総合評価票・ケース概要票) (P153～P164参照)			
	11月							
	12月		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 職員との関係ができて から作ります。 </div>			12/26 長期目標策定(P165参照) 短期目標①策定(P166、P172、P177参照)		
H27 (中2) (中3)	1月	野球部入部	1/27 プラン①作成 (P184、185参照)	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 疲弊している家族には、まず落ち着いた生 活をしてもらう。職員も家族の話に傾聴す る。 </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 残った弟・異母妹に 対して虐待がないよ うに見守る。 </div>			
	2月							
	3月	本児の言動で孤 立・謝罪				3/20 ①の評価 短期目標② (P166参照)		
	4月	監督が担任					5/15 ①の評価 短期目標② (P172参照)	
	5月		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 野球を続けた いから、他にも頑 張る。家族のこ とはどうでもい い。 </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 野球が終わって崩れた。生活へ のモチベーションを野球で引 振りすぎってしまった(職員の反 省) </div>				
	6月	レギュラーにな る。						
	7月	夏の大会 野球部引退	7/11 ①の振り返り・ プラン②作成 (P185参照)			7/15 ②の評価 短期目標③ (P167参照)		
	8月	無断外泊						<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 実母の死に対する認識 の修正のために目標 の変更が必要(予定より 早い見直し) </div>

	9月	誕生会 気持ちの吐露 実母への思い	お母さんが死んだのは自分のせいでもある(泣)⇒父「それは違う」		9/20 ③の評価 短期目標④ (P168参照)	9/25 ②の評価 短期目標③ (P173参照)	
	10月	実父と面会 墓参り	10/2 ②の振り返り・ プラン③作成 (P186参照)	父:研との面会、 母親の墓参りから、 関係がすこしづつ良くなっ てきたが、妻(継 母)の研への気 持ちはどう変わっ ていってくれるか?		実母の死に対する認識 の修正のために目標の 変更が必要(予定より 早い見直し)	
	11月	家に帰りたい					家庭復帰に 向けた地域 の準備を要 請。継母の フォロー、ケ ア
	12月	家族と面会		12/20 プラン①作成 (P189参照)			
H28 (中3)	1月				1/15 ④の評価 短期目標⑤ (P169参照)	1/15 ③の評価 短期目標④ (P174参照)	1/20 ①の評価 短期目標② (P177参照)
	2月	高校受験					
(高1)	3月	高校合格 卒業式 家族参列	3/5 ③の振り返り・ プラン④作成 (P187参照)	3/18 ①の振り返り・ プラン②作成 (P190参照)	家庭復帰に向けた具体的な本児・家族の努力・ 協力		
	4月	高校入学式 家族参列	新しい社会的居場所(高校)に馴染る。 それが達成できたら、いよいよ...		4/5 ⑤の評価 短期目標⑥ (P170参照)	4/5 ④の評価 短期目標⑤ (P175参照)	
つづく							

や弟を可愛がっていたが異母妹出産後は、2人に対する身体的・心理的虐待が始まる。本児に対しては、玄関で過ごさせ家の中に入れずに食事も与えないような時もあった。

弟：現在小学校4年生。性格的には母親に似ておりおとなしく、気の弱い性格で、おどおどした面が見られる。家の中では異母妹の面倒を見たり、家事を手伝ったり、継母の言うことについては素直に聞いて生活しているため、本児に対するような虐待はない。学校では問題なく生活できているとのこと。

異母妹：5歳。1歳の時から保育園に通っている。1歳半・3歳児健診とも異常は認められず育っている。本児の弟との関係は良好。本児と異母妹とで遊んでいる時に異母妹が泣きだしたりすると、継母に折檻を受けるのだが、本児は異母妹のことはかわいいと言っていた。

・**家族機能 該当項目（大 5個 中12個） *留意の必要度（○高 中 小）**

経済的には困窮していないものの、夫婦関係は良いとは言えない。家族のまとまりがあるとはいえず、問題が生じても解決することなく放置気味である。子どもにとっても家庭が居心地の良い場所にはなっておらず、家にいてもほっとできるような環境ではない。

・**家庭の養育力 該当項目（大 8個 中12個） *留意の必要度（○高 中 小）**

本児を含め、基本的な生活習慣の獲得が年齢相応にできてはおらず、子どもの生活自立の状態はよくない。子どもへの基本的なケアが不足している状況である。また、本児や弟に対する温かな関わりができておらず、怒鳴ったり、叩いたり、拒否したりといった不適切な養育を行っている。本児は父を好きだが怖がっている。

○ **子どもについて**

・**虐待的養育の可能性 該当項目（大 7個 中 8個） *留意の必要度（○高 中 小）**

継母は本児や弟を可愛がるが、異母妹誕生後から本児や弟に対して、言うことを聞かないときや親の期待に添えないときには叩く、ののしるような態度で接するようになった。異母妹との差別的な対応を取るようになる。実父も本児に対しては体罰を加えたりしていた。

・**心身の発達状況 該当項目（大 3個 中 6個） *留意の必要度（高 ○中 小）**

正常範囲の身体発育である。思春期スパートが始まっている。スポーツが好きで特に野球など球技を得意にしている。つまずいたり、失敗したときなどに自分をコントロールしながら考えて対処する機能は十分獲得しておらず、自分に自信がないこともありすぐに諦めてしまう傾向にある。知的な発達に関しては年齢相応の能力を有しているが学力は遅れている。基本的な生活習慣であるが、起床就寝など不規則で身に付いていない面もあるが、あいさつなどはしっかりできる。年齢相応の発達課題がクリアできていない。

・**心身の健康状態 該当項目（大 4個 中 8個） *留意の必要度（高 ○中 小）**

未処置の歯があるので治療が必要。アレルギーはない。ADHD傾向は見られるものの障害の診断がつくまでではない。偏食ぎみであり食習慣を改善する必要がある。

・**行動上の留意点 該当項目（大 2個 中11個） *留意の必要度（高 ○中 小）**

万引きなど反社会的行動傾向がみられるものの、手口などの技術面から判断しても深度は軽・中度の段階である。ただ、道徳的規範意識などが低く相手に対して心からの謝罪ができない面あり。不登校傾向が見られる。家に帰って来なくなり友人宅への外泊が増えている。

・**人間関係上の問題 該当項目（大 1個 中 9個） *留意の必要度（○高 中 小）**

実父や継母に対する不信感は根強く、自分のことを大切にしていけないし理解してくれていないと思っている。被虐待やいじめられた経験から、人間に対する不信感や恐怖感が強く、人との付き合いについては苦手意識を持っている。また、自己肯定感が低く、今の自分を好きになれないでいる。したがって、友人はいるものの少ない。中学生になってからは不良グループとのつきあいが始まる。きょうだいとの関係はよく、弟や妹をかわいがっている。

○ 生育歴

年齢	子ども自身	家庭生活（家族関係）	地域社会（学校など）	既往歴・特記事項
0歳	自然分娩で安産。出生児体重 2980g	両親・親族とも本児の出生を喜ぶ		
1歳	乳幼児健診指摘なし			
3歳	3歳児健診指摘なし			
4歳		弟が生まれる。この頃から実母うつになる。		ことばの発達が未熟 本児の養育は父方祖母が中心
6歳	持ち出し 小学校入学	実母がうつ病で病院に入院		下痢や腹痛の症状や夜尿が増える
7歳	学校欠席がち	実母死亡。	勉強についていけず	
8歳		実父、継母と再婚。		
9歳		異母妹生まれる。		
10歳	友人宅より金品を盗む	本児・弟に対する継母からの虐待		
12歳	万引きをして補導 中学校入学	実父からの体罰が増える		
13歳	不良グループとのつきあい	実父継母は養育意欲なし		
14歳	万引き・窃盗がエスカレート 児童養護施設入所		野球部顧問が熱心に指導	

・生育歴上の問題 該当項目（大 2個 中 2個） *留意の必要度（高 ○中 小）

胎児期：妊娠中は、姑との関係で精神的にストレスはあるものの、胎児に影響を及ぼすようなものは摂取せず、順調に育つ。

乳児期：自然分娩で安産。出生児体重 2980g 両親・親族とも本児の出生を喜ぶ。乳幼児健診では指摘事項は特になかった。父親は仕事の関係で家を空けることも多かった。

幼児期：3歳児健診においても特に指摘事項はなかった。語彙数が少ないなどことばの発達が未熟であった。弟が生まれてからは実母がうつになり、本児の養育は父方祖母が中心になる。この頃から夫婦関係が悪化する。4歳ぐらいから下痢や腹痛の症状が時々見られるようになる。

6歳の時に実母がうつ病で病院に入院してからは、下痢や腹痛の症状や夜尿が増える。持ち出しもこの頃から見られるようになる。

学童期：小学校に通学するようになってからも、下痢や腹痛の症状や夜尿が続き、学校を欠席することが多かった。欠席したときには家にひとりで寝ていた。そのため学校の勉強にはついていくことができず、また忘れ物も多く、他児からいじめを受けることがあり、さらに学校を休みがちになった。

小学校1年生の時に実母死亡。

小学校2年生の時に実父・継母と再婚。継母は本児や弟を可愛がるが、異母妹誕生後から本児や弟に対して、言うことを聞かないときや親の期待に添えないときには叩く、ののしるような態度で接するようになった。異母妹との差別的な対応を取るようになる。この頃から本児は友人宅からお金を盗むようになった。

思春期：小学校5年生の3学期に、スーパーで万引きしていたところ警察官に補導される。その後、児童相談所が継続指導を開始する。実父も継母も本児の行動上の問題の背景について説明し、改善を求めるものの、取り組もうとする意欲がなく、本児に手をかけようとしない。

中学校に入学してからは、不良グループとのつきあいもするようになり、友人宅に外泊するようになり家に帰ってこなくなる。万引きなどが増え、万引きした金品を友人にカンパし、ゲームセンターなどで遊ぶようになる。学校の野球部顧問は、本児に対して熱心に指導するが、改善は見られない。

一方、このような本児に対して、実父はさらに厳しく体罰を加えるようになる。家庭での身体的虐待、ネグレクトがさらに重度化し、本児の行動上の問題はさらにエスカレートしていったため、一時保護し、保護者の同意のもと、児童養護施設に入所となる。

○地域について

- ・**居住環境 該当項目（大 個 中 6個） *留意の必要度（高 中 ○小）**
民間アパート（2DK）での生活。室内は汚れているものの生活できないような環境ではない。

- ・**地域の養育力 該当項目（大 個 中 7個）目 *留意の必要度（高 ○中 小）**
近隣とのトラブルはないものつきあいはやや乏しい。比較的安全な地域であり、育成環境や自然環境も悪くはない。学校も教育熱心であり、本児に対して丁寧に指導しているが、親の学校に対しての信頼感は乏しい。

- ・**社会的資源 該当項目（大 個 中 5個） *留意の必要度（高 中 ○小）**
学校はもとより、虐待防止ネットワークも積極的に活動しており社会資源として活用できる。子育て関連事業としては、育児支援家庭訪問事業や地域子育て支援センター事業などがある。

総合的所見：

本児の行動上の問題は、6歳の時に家からの金銭持ち出しから始まっている。その原因は乳幼児期の養育環境上の中にあると思われる。本児は3歳児健診までは指摘事項もなく順調に育っていたとされるが、母親は実父の意見に従って生活や姑からの指摘に対する取り組みなどからストレスを感じながらの育児であったことが推察される。さらに本児が4歳時での弟の誕生や母親のうつ状態の長期化、あるいは夫婦関係の悪化は、本児に対して心理的に計り知れない不安と混乱を与え、心的発達に多大な影響を及ぼしたと思われる。その後実母が病院に入院してしまい、7歳時に死亡に至ったことは、大きな喪失体験となり心理的不安と混乱を与えた。実母の入院後に本児の持ち出しが始まっているが、その背景には家庭生活の乱れ、適切な養育が行われていなかったことがあると推察する。小学2年時に父親が再婚し、継母が同居して、当初は安定した家庭生活と安定して学校生活を送り始めたが、異父妹出産後、継母は叩くなどの不適切な対応をするようになる。異母弟への差別的対応への不満などから本児の行動上の問題が増えると、徐々に実父による体罰もエスカレートしていった。本児と継母及び父親との関係は悪化し、本児に対する養育意欲が薄らいでいく中で、本児は家庭での居場所を失う危機感や不安感を高めていった。また、日常的に繰り返される叱責は自己評価を低下させ、悲しみや寂しさを増幅させていった。小学5年時以降の非行や中学入学後の非行グループとの交流などは、そうした寂しさや自己評価の低下が背景にあると推察できよう。

本児が現在抱えた課題としては、①継続的に安定し一貫した養育者との愛着関係の未形成、②実母という大切な存在の喪失体験、③本児の発達ニーズに対応できなかった養育環境の影響による、基本的信頼感の未形成、衝動や欲求の自己調整力や自己統制力の未形成、基本的生活習慣の未獲得などの初期の心理社会的発達課題の未達成、④仲間との交流や子ども集団への参加の不足による、対人関係スキルやコミュニケーションスキルの獲得不足、⑤実父・継母からの身体的・心理的虐待による心的影響としての恐怖感、不安感、不信感、不満感、居場所のなさなどによる非行や大人への反発などであろう。

本児の抱えている課題からの回復や行動上の問題の改善を図るためには、本児を児童養護施設に入所し、安定した環境のもとで、次のような内容を目標に据えて、心的回復と成長を支えることが必要である。

- ① 安心、安全な生活環境の提供による本児の個人的居場所づくり
- ② 養育者（職員）との基本的信頼関係づくりと良好な友人関係づくり
- ③ トークンエコノミー法などを活用した社会的生活スキルの獲得
- ④ 喪失体験やトラウマ体験のを含めた肯定的な人生ストーリーの構築
- ⑤ 肯定的評価による自己肯定感や自尊感情の形成
- ⑥ スモールステップによる家族との関係の修復

また、保護者に対しては、定期的な面接やプログラムによる虐待行為への認識、養育力の向上、夫婦関係の改善、子どもの問題状況への問題解決力の形成などが必要である。さらに、地域による支援については、要保護児童対策地域協議会を活用して、継母が相談できる関係にある市町村の家庭児童相談員をキーパーソンにしつつ、家庭への地域サポート体制を確立し、支援を実施することが必要である。

●パートI 子ども① ● 実態把握・評価項目 子どもの家庭総合評価票《電子版》 思春期 (小学校5年生～中学3年生) 養護・虐待・非行・育成相談版 総括一覧シート

該当ページ	実態把握・評価項目 は評価票に示したものと 同じ重要項目です。	子ども自身に関する検討課題										家庭・地域の検討課題			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
P1	基本事項	養育者 主たる養育者	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
	P2	主たる問題 (主訴)	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
P3	出生時の問題	主たる問題 (主訴) の深刻さ	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
	生育史	教育・保育歴 妊娠・出産時に問題があった	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
P4	既往歴	対象の子どもの疾患既往の有無	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
	養育歴	実母との離死別経験 実父との離死別経験	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
現在の心身の健康	身体発育	身長 155cm 体重 40kg	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
	歯科学的発達状況	発達発育曲線による評価 (身長) 発達発育曲線状による評価 (体重)	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
現在の心身の健康	栄養状態	未処置う蝕	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
	生活状況 (現在の状況)	自発的排出を伴う異常な過食行動の有無	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
現在の心身の健康	不自然な身体損傷	不自然なあざ、やけど、傷などの有無	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
	性的成熟 (第二次性徴および性的行動)	男子： 声変わりした 女子： 胸が膨らみ始めた 初潮があった 初潮を迎えたが今は生理がない	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
現在の心身の健康	身体能力の発達 (体力診断)	体力の発達 (体力テスト)	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		

●パートI 子ども③● 思春期 (小学校5年生～中学3年生) 養護・虐待・非行・育成相談版 総括一覧シート

該当ページ	実態把握・評価項目 □ は詳細票に示したものと 同じ重要項目です。	留意の必要度 ◎=大 ○=中 無記入=小	子ども自身に関する検討課題							家庭・地域の検討課題				
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
P10	子どもの行動特徴 発達的 特徴	9 9 9	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源	
			○			*								
			○			*								
P11	子どもの好きな活動	6-1, 6-6	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源	
			*											

該当ページ	実態把握・評価項目 □ は詳細票に示したものと 同じ重要項目です。	留意の必要度 ◎=大 ○=中 無記入=小	子ども自身に関する検討課題							家庭・地域の検討課題					
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
P12	基本事項 家計の担当者 同居家族	1 5.7	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
P12	養育者の身体疾患・障害 主たる養育者の身体疾患・障害 現在の通院の有無 身体疾患・障害による入院経験：対象の子どもが生まれて以降 身体疾患・障害による入院経験：現在 身体障害の認定（手帳の交付など） 身体疾患・障害による養育の困難度 その他の養育者の身体疾患・障害の有無 現在の通院の有無 身体疾患・障害による入院経験：対象の子どもが生まれて以降 身体疾患・障害による入院経験：現在 身体障害の認定（手帳の交付など） 身体疾患・障害による養育の困難度	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
												*			
												*			
												*			
												*			
												*			
												*			
												*			
												*			
P13	養育者の精神障害 主たる養育者の精神障害 現在の通院の有無 精神障害による入院経験：対象の子どもが生まれて以降 精神障害による入院経験：現在 精神障害による養育の困難度 精神障害による養育の困難度 その他の養育者の精神障害 現在の通院の有無 精神障害による入院経験：対象の子どもが生まれて以降 精神障害による入院経験：現在 精神障害による養育の困難度 精神障害による養育の困難度	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
			*								*				
												*			
												*			
												*			
												*			
												*			
												*			
												*			
												*			
P14	家族の心身の健康	1	虐待的養育の可能性	心身の発達状況	心身の健康状態	行動上の留意点	人間関係上の問題	生育歴上の問題	家族機能	家庭の養育力	居住環境	地域の養育力	社会的資源		
			*								*				



困難性と解決への資源性:パートII 家庭

困難性	資源性
養育者の心身の健康について	養育者の心身の健康について
主たる養育者の家庭内での暴力が報告されている ●対象: 対象の子ども	
主たる養育者以外の養育者の家庭内での暴力が報告されている ●対象: 対象の子ども 配偶者 きょうだい	
家族関係について 主たる養育者は対象の子どもに十分な愛着を感じていない	家族関係について
基本的な家庭の生活や養育について	基本的な家庭の生活や養育について
主たる養育者の対象の子どもに対する関わりは温かさに欠けている	
主たる養育者以外の養育者の対象の子どもに対する関わりは温かさに欠けている	
	主たる養育者には子育ての相談相手や預け先がある ●種類: 自分の親 友人 友人
家族の過去に大きな出来事があった ●種類: 実母の死亡 実母の大病	

(注2) さらに詳しい情報収集が必要かもしれない



困難性と解決への資源性:パートⅢ 地域

困 難 性	資 源 性
近隣との関係について	近隣との関係について
対象の子どもは近隣の子どもと交流できていない	
居住地域の子育て支援状況	居住地域の子育て支援状況
	対象の家庭に対する支援を期待できる人がいる ●種類：学校の教師
	対象の家庭は子育てサービスや支援機関を利用・参加したことがある ●種類：市区町村の相談窓口
	対象の家庭は公的な手当を受けている ●対象：児童手当

memo



Illustration by こねこね 11

子ども育ち・育てプラン(目標シート) 【NO. 1】

最新作成年月日:平成28年 4月 5日(記載者: 佐藤)

氏名	そだち 研	生年月日	平成12年 9月15日 (1 歳 6か月)	児相 ●●県中央	担当福祉司 担当心理司
長期目標(平成28年 7月末 くらいまで):平成26年12月26日設定					
子ども		家庭		地域社会	
<ul style="list-style-type: none"> ・高校に進学し、得意な野球活動に打ち込む。 (追加:H28. 1. 15) ・家庭復帰を実現する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待の起こらない家庭にし、本児を迎え入れる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・家族再構築に向けて、地域で本児の家族を見守る体制をつくる。 	
短期目標					
子ども		家庭		地域社会	
6 番 目	設定日28年 4月 5日 <ul style="list-style-type: none"> ・高校生活に慣れる。 ・家庭復帰に向けて帰宅訓練を重ねて家族を安心させる。 ・自分で弁当を作る。 	設定日 年 月 日		設定日 年 月 日	
5 番 目	設定日H28年 1月15日 <ul style="list-style-type: none"> ・希望の高校に合格する。 ・家族との通信を継続する。 ・大人を頼る。 	設定日28年 4月 5日 <ul style="list-style-type: none"> ・継母の暴力に対する認識を変える。 ・継母のケア 		設定日 年 月 日	
4 番 目	設定日H27年 9月20日 <ul style="list-style-type: none"> ・実母の死に対する自身の認識を修正する。 ・実父との交流から始め、家族との交流を目指す。 	設定日H28年 1月15日 <ul style="list-style-type: none"> ・継母の本児に対する拒否感を軽減していく。 		設定日 年 月 日	
3 番 目	設定日H27年 7月15日 <ul style="list-style-type: none"> ・進路の決定に向けて、学力の準備をする。 ・体力をつける。 ・悪い仲間とは遊ばない。 	設定日H27年 9月25日 <ul style="list-style-type: none"> ・実母の死に対する本児の認識を修正する。 		設定日 年 月 日	
2 番 目	設定日H27年 3月20日 <ul style="list-style-type: none"> ・野球部のレギュラーになり、夏の大会で活躍する。 ・万引きとか、悪いことはしない。 ・早寝早起き、人の話を聞く。 	設定日H27年 5月15日 <ul style="list-style-type: none"> ・徐々に家庭復帰の道を探っていく。 ・児童相談所を通じて、養育における虐待の認識を持ってもらう。 		設定日H28年 1月20日 <ul style="list-style-type: none"> ・本児の家庭復帰に向けての、地域の準備を行う。 	
1 番 目	設定日H26年12月26日 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境(施設・中学校)に慣れる。 ・野球部に入る。 	設定日H26年12月26日 <ul style="list-style-type: none"> ・安定した生活を送る。 		設定日H26年12月26日 <ul style="list-style-type: none"> ・本児の家族に対する支援体制の確認を行う。 	

子ども育ち・育てプラン(実践シート「子ども」) 【NO. 1】

氏名	そだち 研	生年月日	平成12年 9月15日	児相 ●●県中央	担当福祉司
					担当心理司
長期目標(平成28年 7月 くらいまで):平成26年12月26日設定					
・高校に進学し、得意な野球活動に打ち込む。					
短期目標(1番目): 平成26年12月26日設定					
・新しい環境(施設・中学校)に慣れる。 ・野球部に入る。					
具体的な支援					
(入所時、髪は本人の承諾の下、黒く染め直し、中学生らしい髪型にカットした。) (事前に中学校にお願いし、施設内の同学年男児Nと同じクラスにしてもらう) 【P156総合的所見①より】 ・園が本児の安心な居場所となるよう、楽しい雰囲気を作っていく。 ・中学校でも早く居場所が見つけられるよう、担任教諭や野球部の顧問に、本児に対する意図的な声かけをお願いする。 【P156総合的所見③より】 ・施設内では、同じユニットの年上の子どもたちにも協力してもらいながら、職員が生活技術を丁寧に教える。 ・野球部入部という目標を軸に、基本的な生活習慣や自己調整力をつけるなど、社会的な生活スキルの獲得を目指して支援する。					
短期目標に関する成長・変化のエピソード	1	H27年 1月 2日	お正月をゆっくりと過ごす。「(家よりも)こっちの方がずっといい」と他児には言っているが、淋しそうな表情を時折見せている。年賀状は唯一、前の中学校の野球部の顧問からであったが、当職に「〇〇先生に年賀状を出したい」と言ってくる。書き方を教えると、時間をかけて丁寧に書いていた。		
	2	H27年 1月 8日	入所して3ヶ月になる。相変わらず朝は職員に起こされて、遅刻ぎりぎりの登校。学校も3学期が始まった。すでにクラスの中の人間関係も固まってきたところであるが、Nの協力もありクラスで話をする友だちもできる。今日、担任が野球部を紹介し、放課後、緊張しながらも体験入部を行った。キャプテンが声をかけてくれたのがうれしかったのか、帰ってきてから「入部することに決めた」と大きな声で当職に言う。ただ、調子に乗って「下手な奴らばっかだから、すぐにレギュラーになれそう」などと反感を買うような発言もあり、助言をする。また、当職から「野球部は朝練があるんだから、今までのように遅寝遅起きだと、ついていけずすぐにクビになってしまうから、しっかりやる気があるのなら今日から早寝早起きに変えること」と言うと「野球のためならやれるかな?」と横を向きながらも了解してくれた。		
	3	H27年 3月10日	学校から連絡があり、昨日今日と欠席している、という。夕方帰宅後、本児に確認すると「部活もつまんねえし、」とそれ以上答えない。しかし、Nに聞いてみると、「今月に入り、研が調子に乗って野球部員に大きい嘘を言ったり、腕の根性焼きを見た結果、研に対する悪い噂が野球部内から学年中に広まってしまい、部活は先週から出ていない。学校も昨日と今日の朝、一緒に出たが、学校に着く前にどっかに行ってしまった。」という。研には、自分の巻いた種であることを説諭し、当職が研と一緒に学校に向き、担任や顧問に事情を話す。同じ施設から通っているNもフォローしてくれたおかげで、今日から学校も部活も復帰した。朝、緊張した面持ちでNと登校したが、周囲の協力もあり、帰ってきたあと、笑顔で「ああ～、疲れた～」と言っていたので、安心した。		
	4	年 月 日			
評価	人一倍不安感の強い本児であるため、2つの新しい環境(生活場所である施設と中学校)に適応することは時間がかかりそうであるが、周囲の協力や理解もあり、徐々に笑顔もみられ、自分から他人に話しかけることができるようになってきた。一度、本児の言動により野球部で孤立してしまい部活動を休んだ時もあったが、園を無断外出しなかったことは、ここを居場所と認めてくれているのかもしれない。 ただし、調子に乗った際に誇張した表現や非行文化を自慢するような言動をとり、周囲から敬遠されることで、不安感や自信のなさが行動にでてくるため、今後も周囲の協力が必要になるだろう。				
平成27年 3月20日 作成者 佐藤					

子ども育ち・育てプラン(実践シート「子ども」) 【NO. 2】

氏名	そだち 研	生年月日	平成12年 9月15日	児相 ●●県中央	担当福祉司
					担当心理司
長期目標(平成28年 7月 くらいまで):平成26年12月26日設定					
・高校に進学し、得意な野球活動に打ち込む。					
短期目標(2番目):平成27年 3月20日設定					
・野球部のレギュラーになり、夏の大会で活躍する。 ・万引きとか、悪いことはしない。 ・早寝早起き、人の話を聞く。					
具体的な支援					
【P156総合的所見②③より】 ・生活が乱れたり、他児との関係でトラブルが起きそうなときには、話をして、本児自身に気づかせ、その時点から修正ができるように促していく。 ・本児の状況を野球部監督に伝え、監督からも意図的な声かけ等をお願いする。					
【P156総合的所見⑤より】 ・第二次性徴も始まっており、偏食させず、栄養をつけて、身体を大きくすることで、自信をつけさせる。					
短期目標に関する成長・変化のエピソード	1	H27年 3月26日	春休み中であるが、部活動があるので、毎日登校している。しかし、帰り時間が夕食時間を大幅に回り、夜8時に黙って帰ってくる。心配していたことを伝え、「なぜ遅くなったか」を聞くと、「帰り道で、先週退所したB先輩(一学年上の中3生男児)にばったり会い、誘われてゲームセンターで遊んでいた。ゲームのお金は先輩からおごってもらった。」という。(男児Bは退所後すぐに家出をしており、そのことは職員間では把握していたので)「今、研も頑張ってるんだから、引きずられないでね」と言うと、「実は、『明日もあそぼう』と約束した。お金は先輩がカツアゲしたらしい。どうしたらいい?こんなことしてたら俺、部活クビになるよな…」と、逆に相談してくる。		
	2	H27年 3月27日	昨日の話を受けて、男児Bのことで施設内で会議を持つ(研もからむことなので、当職も出席)。部活が終わったところで当職が研と待ち合わせ、一緒にBと会う。はじめはBも「てめえ、裏切ったな」と研に文句を言ったが、よくよく話を聞くとBも家に居場所がなく淋しい思いをしていたようなので、Bも施設に連れて来て、担当だった職員につなぐ。しばらくして研と当職に謝罪してくれた。Bの謝罪のあと、研が当職に「だから家なんか帰りたくないんだ。俺ここから高校に行く」とぼそつと言う。		
	3	H27年 4月 6日	入所して半年が経った。中学3年の新学期を迎え、今日から再び登校開始。クラス替えはないが、担任が替わる。野球部顧問がクラス担任になった。帰ってくるなり、監督が担任になったことを当職に伝えるとともに「監督から、『もう少し頑張ればレギュラーも夢じゃないぞ、頑張れよ』って言われた」と自慢げに言う。また、明日入学式を控えている当施設の新中学生男児の部屋を回り、野球部入部の勧誘をする。高校生からは研、おまえ中3になったからって、先輩ぶって無理矢理入部させんじゃねーぞ」と笑いながらからかわれていた。		
	4	H27年 6月 5日	学校から帰ってくるなり、「やったぜ、レギュラーとったぜ」と、自慢げに飛び跳ねながら当職に報告してきた。昨年末に一度無断欠席があったが、それ以外は学校も休まず、また万引きなど入所前の非行行為も現在のところ見られない。今年に入って頑張り続けていることを褒め、研に頑張っている理由を聞いたところ、「悪いことしてバレたら野球部クビになるし。好きな野球ができなくなるのが、今の俺にとって一番嫌なことだから。」と答える。「じゃあ、バレなきゃやってもいいの?」と聞き返すと「バレなきゃね。でもここはすぐバレルから。だからやらない。」と。		
評価	(6/5日誌の「悪いことしたらクビになるから」というような)取引的な理由であっても本児が頑張っていることには違いない。また、部活動や帰ってきてから野球の話をしているときの本児の表情は実に生き生きしており、家庭で本来見られるべき「子どもらしさ」が今出てきている。大人への不信感が徐々に消え始めているようだ。(春休みのBとのエピソードのあと、当職に話しかけが多くなったような気がする。「自分が困っていることを、相談したら、大人が助けてくれた」という体験が関係しているか?)ただし、そのエピソードの際に「だから家なんか帰りたくないんだ。」と言ったことについては、今後家族との交流を考えていく上で慎重に扱う必要がある。また、野球部に入ることによって早寝早起きが続くようになり、生活のリズムもしっかりできてきた。「嫌いだけどしょうがないなあ、食べるか」と言って偏食も克服し、身長が入所時よりも7センチも伸び(162cm)筋力もついて、本人も自信を持ってきた。				
平成27年 7月15日 作成者 佐藤					

子ども育ち・育てプラン(実践シート「子ども」)

【NO. 3】

氏名	そだち 研	生年月日	平成12年 9月15日	児相 ●●県中央	担当福祉司	
					担当心理司	

長期目標(平成28年 7月 くらいまで):平成26年12月26日設定

・高校に進学し、得意な野球活動に打ち込む。

短期目標(3番目):平成27年 7月15日設定

・進路の決定に向けて、学力の準備をする。
・体力をつける。
・悪い仲間とは遊ばない。

具体的な支援

【P156総合的所見⑤より】

・今の学力では、希望する野球が強い高校への入試合格は困難と思われるため、受験勉強のための学園での自己学習に加え、より受験勉強のための塾に通わせる。本児にも「目標(希望の進路)を達成するためには学力を上げること」を説明し、自ら学習に励むよう促す。

【P156総合的所見②③より】

・野球部も終わり、長期の休みで気が抜けることから、以前の交友関係が再燃されることが予想される。そのため毎日の日課を立てリズムある生活を送らせたい。幸い本児は「(野球のために)体力をつけたい」と言っているため、体力づくりのための日課を毎日取り入れ、職員も一緒に付き合いながら継続した支援を行う。

短期目標に関する成長・変化のエピソード	1	H27年 8月 10日 夏の大会が終了、野球部も引退し、目の前の目標がなくなると、とたんに生活が乱れ始めた。受験勉強のための塾もはじめの2日くらいは行ったが、3日目には塾に行くと言って出たにもかかわらず、塾から「来てません」と連絡があった。夜、その件で研を問い詰めるも「塾に行ったら、勉強が分からない。これじゃ、俺の行きたかった△△高校なんか入れるわけない。もうどうでもよくなった。」と。その夜、一人で無断外泊する。児相に連絡。家出人捜索を警察に届ける。研の家に連絡すると、継母が出るが「何のために施設で生活しているのか、あの子にはしっかり考えてほしい。これでまた万引きしてもウチには関係ありませんから。弁償は施設でしてください」と、冷たい対応で電話を切られる。
	2	H27年 8月15日 夜、5日間の無断外泊から自分で帰ってくる。伸びたスポーツ刈りの髪の毛が赤くなっていた。外出中どこに行っていたか聞かぬが、言おうとしない。ポケットにはたばこライターが入っていた。児相や警察に帰園の連絡をする。家にも連絡をするが、また継母が出る。先日の対応もあり、連絡のみの内容となった。その後1時間経って、実父から電話が来る。「研が馬鹿なことをして迷惑をかけている。申し訳ない。あいつは言葉で言ってもダメなので、殴ってやってくれ。親の私が許すから」と言う。当職も無理やり研を塾に行かせてしまったことを反省し謝罪する。すると、研も「別に塾に行かせたことがむかついて出たわけじゃない。怒られたことにむかついて出たわけでもない。ほんとは何にもできない自分にむかついて出たんだ。ごめん」と謝った。その後、無断外泊中の行き先を話し始めた。外泊中は、「おれの地元のゲームセンターに行って遊んだり、コンビニでたばこやライターを万引きしたりして過ごした。最後1日は、お盆の期間に帰省しているCのところに顔を出すが、『研、おまえ無外してきたんだろ。学園に電話するぞ』と言われたので、すぐに逃げた。学園を飛び出したけど、行くところもないし、家にも帰りたくなかったから」と。自分から戻ってきてくれたこと。地元に行っても以前付き合っていた不良グループのところには行かなかったことを評価する。(万引きしたコンビニには当職が研を連れて謝罪に行く。嫌みは言われたが、とりあえず被害届は出さずに終わる。状況については児相に連絡)
	3	H27年 8月31日 夏休み最終日、児相CWが来院して研と面会。無断外泊中は心配していたことを話すも反抗的な態度をとる。また、「野球の強い△△高校に行きたかったら、また勉強頑張ろうよ」とCWが言うと、「どうせ家には帰れないんだから高校なんかどこでもいい。D先輩(施設内の高校生)と同じところでもいい。」と投げやりな返答。面会はわずか10分ほどで終わり、研はそそくさと部屋のベッドに潜り込む(その後すりなくような声が聞こえた)。(追記:夏休み明け、不調は続くが、担任教諭の働きかけもあり、学校は何とか毎日登校している。)
	4	H27年 9月15日 研の15歳の誕生日。夕食時に誕生会を行うと、つまらなそうな態度をとるが、時折照れた表情を浮かべる。女性職員が作ったケーキを研が切り分ける。実父、弟、妹からバースデカードや折り紙が届くが、中身を見ずにそのまま職員に預ける。翌日、当職が夜勤だったこともあり、就寝後事務室の前に来る。「お母さん(実母)が生きていたときに誕生会をしてくれたことを思い出したら、急に悲しくなってきた。お母さんがまだ生きていたら、俺はこんなことにならなかったのに…。でも、俺がお母さんに迷惑をかけたから、病気がひどくなって死んだのだから、俺も罰を受けないと。それとあいつら(実父と継母)も。」と話す。

評価
野球部が終わった時点で生活意欲が落ちることが予想されたため、生活日課を維持するためにもこちらから塾に行かせたが、学力的に本児には難しかったことは、職員として反省をしなければいけない。「わかる内容」から学習ボランティアなどを活用して行うべきだった。また、それが要因での当職とのやりとりで無断外泊を5日間もさせてしまった。幸いその中で本児が学園の生活を肯定的に捉えてくれていることも知り、本児との関係も一つ進んだように感じる。本児15歳の誕生日翌日の就寝前のエピソード(上記参照)から、その後も数回話をしたが、実母の死の原因について、実父からのDVの他にも、本児が「自分のせい」だと思い込んでいるところを確認した。この気持ちを吐露してくれたことは非常に大きく、かつ本児の認識(自分のせい)を修正する必要があるため、児相に連絡し、実父による事実の修正等を依頼したい。この修正がうまく進むことで、家族との交流、再構築の可能性が広がってくるだろう。(本来、10月半ばに評価をする予定だったが、上記の件があり、急遽短期目標を変更する必要が生じたため、評価を1ヶ月早めた)

平成27年 9月20日 作成者 佐藤

子ども育ち・育てプラン(実践シート「子ども」) 【NO. 4】

氏名	そだち 研	生年月日	平成12年 9月15日	児相 ●●県中央	担当福祉司
					担当心理司
長期目標(平成28年 7月 くらいまで):平成26年12月26日設定					
・高校に進学し、得意な野球活動に打ち込む。					
短期目標(4番目):平成27年 9月20日設定					
・実母の死に対する自身の認識を修正する。 ・実父との交流から始め、家族との交流を目指す。 ・高校進学に向けて真剣に勉強する。					
具体的な支援					
【P156総合的所見②④より】 ・実母の死の原因について、職員が寄り添い、本人の気持ちを一緒に整理しながら、実父の面会等により修正をする(自分が迷惑をかけたために実母が死に至ったと認識しているため)。 【P156総合的所見⑥より】 ・上記修正ののち、弟・異母妹・継母との通信等を通して、本人の様子をみながら段階的に面会を実現する。					
短期目標に関する成長・変化のエピソード	1	H27年10月 8日	実父が面会に来る。目的は、研が誕生日の翌日に言った「実母の死の原因に自分があつたこと」という間違つた認識を訂正するためであり、実父もそれを切り出すまでにはかなり時間を要したが、最後にその話をする。研も聞いたときは驚き、信用しなかったが、やがて表情がゆるむ。その後、自分(実父)の実母に対してのDVについて、研に謝罪すると、研は泣き出し、それにつられるように実父も泣く。そのあと、実母の命日が10月25日であることを実父が初めて研に伝え、「墓参りに行きたい」と言ひだし、その場で10月27日(日)に実父、研、当職で墓参りに行くことを約束する。 面会前、研は当職に「あいつ(実父)が来たらお母さんへの暴力のこと、必ず(文句を)言ってやるから。絶対許さない。」と豪語していたが、結局言い出さなかった。また、実父が帰つたあと、しばらく当職と話をしたが、その際「あの人(継母)にも迷惑かけたかなあ」と言い出す。 (追記:面会・墓参りあたりを契機に、表情が柔らかくなり、イライラして他人に当たることも減ってきた。生活も野球部の活動を行っていたときのよう生き生きとしてきた。)		
	2	H27年11月10日	・学校で進路の決定がそろそろあるので、今後についての話を事務室で行う。コツコツと勉強している姿も見られるが、なかなか結果につながらないため、高校については「前に言った野球の強い△△高校は学力が追いつかないので、あきらめる。児相CWIに言った『D先輩と同じ高校』はあの時荒れてたので、ただ言っただけ。そのつもりは最初からない。」と言う。では、どこを受けたいのか聞くと、ここ(施設)から片道1時間くらいはかかる隣の市にある××高校の名前を挙げる。当職が「野球はまあまあ強いが、通学時間がかなりあるぞ」と言いながらも、ふと「この高校は、学園から通うより研の家からの方が近い。もしかしたら研は家に帰りたくなってきたのか?」と思い、それを聞いてみると、「おやじと会ってから(気持ち)揺れている」と吐露する。		
	3	H27年12月20日	入所して1年3ヶ月が経とうとしている中、初めて家族と面会する。一時保護所入所から通算すると1年半近く会っていなかったため、弟と異母妹もはじめは人見知りしている表情だったが、すぐに兄(本児)と打ち解け、和気藹々と過ごす。しかし、継母との会話はほとんどない。研、弟、異母妹は別室で過ごしてもらい、その間、実父・継母と当職とで今後のことについて協議する。 研の「いつか家に帰りたい」という希望を伝えると、継母はあからさまに怪訝な表情になった。「もちろん、今すぐ、という話ではなく、まずは施設から××高校に通い、面会や外泊を重ねながら可能性をさぐっていきたい」旨を伝えると、渋々了承し、次の面会(3月の卒業式)も約束する。		
	4	H 年 月 日			
評価	目標とおり、実母の死に対する認識を修正することができ、併せて実父からの謝罪、墓参り等で本児の「家に帰りたい」気持ちが強くなってきた。また、今後の調整も必要ではあるが、家族との交流も実現し、家庭復帰への動きがようやく始まった感がある。 学校生活では、受験を控え、担任教諭(野球部顧問)も本児の支えとなりながら、頑張っている。 この頑張りでも希望の高校に入学できたとすれば、長期目標の一つである「野球の(そこそこ)強い高校」で、楽しい学校生活を送りながら、かつ並行して本児の状況にあわせてスモールステップを踏みながら家庭復帰の調整を図っていきたい。				
平成28年 1月15日 作成者 佐藤					

子ども育ち・育てプラン(実践シート「子ども」) 【NO. 5】

氏名	そだち 研	生年月日	平成12年 9月15日	児相 ●●県中央	担当福祉司
					担当心理司
長期目標(平成28年 7月 くらいまで):平成26年12月26日設定					
<ul style="list-style-type: none"> ・高校に進学し、得意な野球活動に打ち込む。 ・家庭復帰を実現する(追加:H28. 1. 15)。 					
短期目標(5番目):平成28年 1月15日設定					
<ul style="list-style-type: none"> ・希望の高校に合格する。 ・家族との通信を継続する。 ・大人を頼る。 					
具体的な支援					
<p>【P156総合的所見⑤より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習面では劣等感が強く、人前で分からない問題を聞くことができないため、個別での学習支援が有効である。そのため・担任教諭の協力を仰ぎ、放課後、学校での補習授業に参加。また、帰園後、学習ボランティアの協力を仰ぎながらの学習支援を行う。 <p>【P156総合的所見⑥より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業式の時の家族との面会に向けて、施設側からも本児の強み(頑張り)等を中心に家庭(特に継母)に伝えていく。 <p>【P156総合的所見②より】</p> <p>本人の様子をみながら、こちらから声かけをしたり、相談してきてくれたときなどは「相談してくれてありがとう」と声かけをして、本児が「大人に頼っていいんだ」と思えるように支援していく。</p>					
短期目標に関する成長・変化のエピソード	1	H28年 1月27日	<p>受験まで残り1ヶ月。学校で放課後の補習授業が始まる。担任教諭が研のために準備してくれたような授業で、ほぼマンツーマンで対応していただいた。</p> <p>(昨年秋以降の研の心情の変化、実父との関係、実母の死に対する自身の認識の修正等を野球部監督の担任に話したところ、「何とかして研には希望の高校に合格してほしい」という熱意で始まった経緯がある)</p>		
	2	H28年 2月25日	<p>入試当日。非常に緊張した面持ちで出発する。おととい届いた実父からの合格祈願のお守りを鞆につけていく。夕方、不安げな表情で帰ってくる。「ダメだったらどうしよう」としきりに職員に聞きにくる。</p> <p>(追記:翌朝も不安げな表情をしていたので、「やるだけのことはやったんだから、心配するな。朝刊に昨日の試験問題と答えが出ているから一緒に見てみようか」と言って、新聞の試験問題の答えを見たら、予想以上にできていたようで、少しほっとしていた)</p>		
	3	H28年 3月 3日	<p>合格発表日。不安な表情で発表を見にいくが、発表時間直後に電話があり「やったあ～、やりました～」と嬉しそうな声で報告する。</p> <p>その5分後、実父から電話がきたので、合格を伝え、電話口でとても喜んでた。夜、研宛てに実父からお祝いの電報が届く。</p> <p>電報に研も喜ぶが、「でも卒業式にはあいつ(継母)も来るんだよなあ」と喜びから一変してテンションの低い声でつぶやいていた。</p>		
	4	H28年 3月18日	<p>中学校卒業式。家族も参列する。終了後、家族と一緒に看板の前で記念撮影。継母も笑顔で写っていた。その後、高校合格のお祝いも兼ねて、家族全員で外食して、夕方帰ってくる。こんな嬉しそうな表情はひさしぶりだ。</p> <p>(追記:後日、継母から職員宛に手紙が届く。「まだまだ、不安の方が大きいですが、研を迎え入れる準備はしなければ、と考えています。もう少し先になると思いますが、研も頑張っているの、私も頑張ります。暴力がない家庭が私の理想です。」と。当職の判断で本児にも読んでもらったところ、「俺もあの人(継母)に手紙書こうかな」と言う。今まで継母のことを「あいつ」と呼んでいたのが、はじめて「あの人」と言った。まだまだ、家庭復帰には時間はかかるが、明るい兆しが見えてきたように思えた。)</p>		
評価	<p>受験勉強も頑張り、希望の高校に見事合格できたことで目標は達成できたといえる。この間、自分の不安な気持ちを大人に吐露しながら解消することもできるようになり、また卒業式に家族も参列、会食もできたことで、本児も早期の家庭復帰を期待しはじめている。しかし、継母も本児の頑張りや嫌悪感が和らいできたものの、家庭復帰の時期は慎重に判断する必要がある。</p> <p>今後、本児が高校生活にも慣れ、帰宅訓練を重ねながら、徐々に家族との距離を縮めていく方法をとっていきたい。</p>				
平成28年 4月 5日 作成者 佐藤					

子ども育ち・育てプラン(実践シート「子ども」) 【NO. 6】

氏名	そだち 研	生年月日	平成12年 9月15日	児相 ●●県中央	担当福祉司
					担当心理司
長期目標(平成28年 7月 くらいまで):平成26年12月26日設定					
<ul style="list-style-type: none"> ・高校に進学し、得意な野球活動に打ち込む。 ・家庭復帰を実現する(追加:H28. 1. 15)。 					
短期目標(6番目):平成28年 4月 5日設定					
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生活に慣れる。 ・家庭復帰に向けて帰宅訓練を重ねて家族を安心させる。 ・自分のことは自分でやる。 					
具体的な支援					
<p>【P156総合的所見②より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設および児相から、高校に本児の家庭状況や今後の家庭復帰の予定などを説明し、学校側から本児への配慮もお願いする。 <p>【P156総合的所見⑥より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅への外出、外泊を目指して、家族への信用を回復する。 <p>【P156総合的所見②③より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは弁当作りの手伝いから行い、それにより自活訓練と職員とコミュニケーションをとる時間にした(高校生になると帰宅時間も遅く、職員との関係が希薄になるので)。 					
短期目標に関する成長・変化のエピソード	1	H 年 月 日			
	2	H 年 月 日			
	3	H 年 月 日			
	4	H 年 月 日			
評価					
					平成 年 月 日 作成

子ども育ち・育てプラン(実践シート「家庭」) 【NO. 1】

氏名	そだち 研	生年月日	平成12年 9月15日	児相名 (●●中央)	担当福祉司
					担当心理司
<p align="center">長期目標(平成28年7月末くらいまで):平成26年12月26日設定</p>					
<p>・虐待の起こらない家庭にし、本児を迎え入れる。</p>					
<p align="center">短期目標(1番目):平成26年12月26日設定</p>					
<p>・安定した生活を送る(ここ1~2年の本児の非行行動で、家庭も疲弊しているので、まずは落ち着いた生活を取り戻すことを優先する)。</p>					
<p align="center">具体的な支援</p>					
<p>・入所時に、実父・継母と面接し、家族のこれまでの苦勞に傾聴し、評価する。 ・入所児童の保護者には定期的に子どもの生活状況を伝える「学園だより」を送っているが、特に継母の疲弊ぶりに配慮して、しばらくは送付をしない(ただし、保護者から送付の希望が確認できればその時点から送付を行う)。</p>					
短期目標に関する成長・変化のエピソード	1	<p>H26年10月 3日 (※短期目標設定前)</p> <p>入所日。研君が弟と妹と別室で遊んでいる間、実父と継母と面接を行う。実父は研君の施設入所に対して戸惑っているところはあったが、それよりも継母の押しの強さに負けている印象を受けた。継母はここ1~2年の研君の非行行動で、弁済や謝罪も含めてかなり疲弊しているようで、研君に対する文句が止まらない状態だった。別れ際には「もう帰ってこないで」とひどい言動もあったが、それに関してはあとで実父が注意をしていた。</p>			
	2	<p>H27年12月 5日 (※短期目標設定前)</p> <p>学園通信は送付していないが、クリスマスは保護者招待行事なので、協議して案内状を出したが、「欠席」ですぐに返信が届く。</p>			
	3	<p>H27年 4月 3日</p> <p>児童相談所の担当CWが交替する。研との面会とは別に、早いうちに家族に挨拶に行ってほしい旨を依頼する。また、その際の感触を後日教えてほしいとも伝える。 (追記:後日CWから連絡があり、「研君に対しての拒否感が非常に強い印象は、前CWからの引き継ぎ通りでした。今後家庭復帰の可能性は非常に少ないかもしれない。研君本人も『帰らない』と言っているのであれば、自立の道考えた方がいいかもしれない」と言う。</p>			
	4	<p>H 年 月 日</p>			
評価	<p>継母の本児に対する拒否感は容易に想像できたため、今後の家族再構築に向けて敵対しないよう、まずは傾聴したことがよかった。 年度の替わり目で、児相の担当CWが替わる。家族との関係をとってもらうためにも、早めの家庭訪問をお願いした。</p>				
<p align="right">平成27年 5月15日 作成者 佐藤</p>					

子ども育ち・育てプラン(実践シート「家庭」) 【NO. 2】

氏名	そだち 研	生年月日	平成12年 9月15日	児相名 (●●中央)	担当福祉司
					担当心理司

長期目標(平成28年7月末くらいまで):平成26年12月26日設定

・虐待の起こらない家庭にし、本児を迎え入れる。

短期目標(2番目):平成27年 5月15日設定

・徐々に家庭復帰の道を探っていく。
・児童相談所を通じて、養育における虐待の認識を持ってもらう。

具体的な支援

・まずは、本児の野球部での頑張りや生活の安定ぶりを、実父に報告し、アプローチしていく。そこから実父を介して継母の気持ちも変えていきたい。
・児相から保護者へ、苦労をねぎらいながらも、育児に関する研修等の案内を出し、自分たちの養育が(客観的にみても)不適切だったことに認識してもらうような促しをしてもらう。

短期目標に関する成長・変化のエピソード	1	H27年 6月 7日 実父に電話をする。研が野球部のレギュラーになったことを報告。実父もレギュラー獲得に喜んでた。(本当は応援に行ってほしいと頼みたいが、研がまだ実父に対しても拒否をしているので、言えなかった。)
	2	H27年 8月10日 夏の大会が終了、野球部も引退し、目の前の目標がなくなると、とたんに生活が乱れ始めた。受験勉強のための塾もはじめの2日くらいは行ったが、3日目には塾に行くと言って出たにもかかわらず、塾から「来てません」と連絡があった。夜、その件で研を問い詰めるも「塾に行ったって、勉強が分からない。これじゃ、俺の行きたかった△△高校なんか入れるわけない。もうどうでもよくなった。」と。その夜、一人で無断外泊する。児相に連絡。家出人捜索を警察に届ける。研の家に連絡すると、継母が出るが「何のために施設で生活しているのか、あの子にははっきり考えてほしい。これでまた万引きしてもウチには関係ありませんから。弁償は施設でしてください」と、冷たい対応で電話を切られる。
	3	H27年 8月15日 夜、5日間の無断外泊から自分で帰ってくる。伸びたスポーツ刈りの髪の毛が赤くなっていた。外出中どこに行っていたか聞くが、言おうとしない。ポケットにはたばこライターが入っていた。児相や警察に帰園の連絡をする。家にも連絡をするが、また継母が出る。先日の対応もあり、連絡のみの内容となった。その後1時間経って、実父から電話が来る。「研が馬鹿なことをして迷惑をかけている。申し訳ない。あいつは言葉で言ってもダメなので、殴ってやってくれ。親の私が許すから」と言う。当職も無理やり研を塾に行かせてしまったことを反省し謝罪する。すると、研も「別に塾に行かせたことがむかついて出たわけじゃない。怒られたことにむかついて出たわけでもない。ほんとは何にもできない自分にむかついて出たんだ。ごめん」と謝った。そのあと、無断外泊中の行き先を話し始めた。外泊中は、「おれの地元ของเกมセンターに行って遊んだり、コンビニでたばこやライターを万引きしたりして過ごした。最後1日は、お盆の期間に帰省しているCのところに顔を出す。『研、おまえ無外してきたんだろ。学園に電話するぞ』と言われたので、すぐに逃げた。学園を飛び出したけど、行くところもないし、家にも帰りたくなかったから」と。自分から戻ってきてくれたこと。地元に行っても以前付き合っていた不良グループのところには行かなかったことを評価する。(万引きしたコンビニには当職が研を連れて謝罪に行く。嫌みは言われたが、とりあえず被害届は出さずに終わる。状況については児相に連絡)
	4	H27年 9月16日 9/15 本児の15歳の誕生日。夕食時に誕生会を行う。翌日、当職が夜勤だったこともあり、研が就寝後事務室の前に来る。「お母さん(実母)が生きていたときに誕生会をしてくれたことを思い出したら、急に悲しくなってきた。お母さんがまだ生きていたら、俺はこんなことにならなかったのに…。でも、俺がお母さんに迷惑をかけたから、病気がひどくなって死んだのだから、俺も罰を受けないと。それとあいつら(実父と継母)も。」と話す。

評価 野球部が終わってから、急に研の生活が乱れ始め、無断外泊等もあり、家族へは研へのマイナスイメージを助長するような報告しかできなかった。しかし、施設での誕生会翌日、当職との面接で、実母の死の原因について、実父からのDVの他にも、本児が「自分のせい」だと思い込んでいるところを確認した。この気持ちを吐露してくれたことは非常に大きく、かつ研の認識(自分のせい)を修正する必要があるため、児相に連絡し、実父による事実の修正等を依頼したい。この修正がうまく進むことで、家族との交流、再構築の可能性が広がってくるだろう。

平成27年 9月25日 作成者 佐藤

子ども育ち・育てプラン(実践シート「家庭」)

【NO. 3】

氏名	そだち 研	生年月日	平成12年 9月15日	児相名 (●●中央)	担当福祉司 担当心理司
<p>長期目標(平成28年7月末くらいまで):平成26年12月26日設定</p> <p>・虐待の起こらない家庭にし、本児を迎え入れる。</p>					
<p>短期目標(3番目):平成27年 9月25日設定</p> <p>・実母の死に対する本児の認識を修正する。</p>					
<p>具体的な支援</p> <p>・この修正については、実父との面会しか方法はないため、まずは実父に本児との面会の依頼をする。(事前に児相と協議しておく) ・実現可能となった場合は、その場で、「(研自身が)自分が迷惑をかけたからお母さん(実母)が死んだ」と間違った認識をしていることを訂正してもらう。 ・その面会だけで本児の認識が修正できなかった場合は、時間をかけてくり返す。</p>					
短期目標に関する成長・変化のエピソード	1	H27年 9月27日	<p>誕生会翌日の研の言葉(「実母の死の原因は自分にある」という内容)を実父に電話で伝える。実父は研の認識が間違っていることに今まで気がつかなかったため、どこかで修正することについては協力する旨を承諾する。その件でどこかで打合せをしたいと頼むと「妻(継母)がまだ研に対して厳しい感情をもっているの、妻には内緒にしてほしい」とのこと。結局、実父の仕事が早く終わる10/3に学園に来てもらい、研と会わないような時間に事前打ち合わせをすることになる。(10/3:あらためて実父に話をすると「つらい思いをさせていたのは私の方で、研には責任はない」と自分を責める発言があった。</p>		
	2	H27年10月 8日	<p>実父が面会に来る。目的は、研が自身の誕生日に言った「実母の死の原因に自分があったこと」という間違った認識を訂正するためであり、実父もそれを切り出すまでにはかなり時間を要したが、最後にその話をする。研もそれを聞いたときは驚き、信用しなかったが、やがて表情がゆるむ。その後、自分(実父)の実母に対してのDVについて、謝罪すると、研は泣き出し、それにつられるように実父も泣く。そのあと、実母の命日が10月25日であることを実父が初めて研に伝え、研は「墓参りに行きたい」と言いたし、その場で10月27日(日)に実父、研、当職で墓参りに行くことを約束する。面会前、研は当職に「あいつ(実父)が来たらお母さんへの暴力のこと、必ず(文句を)言ってやるから。絶対許さない。」と豪語していたが、結局言い出さなかった。また、実父が帰ったあと、しばらく当職と話したが、その際「あいつ(継母)にも迷惑かけたかなあ」と言い出す。(追記:面会・墓参りあたりを契機に、表情が柔らかくなり、イライラして他人に当たることも減ってきた。生活も野球部の活動を行っていたときのように生き生きとしてきた。)</p>		
	3	H27年11月27日	<p>保護者宛に送ったクリスマス行事の案内状の返信はがきが学園に届き、「家族で出席」となっていた。職員も驚き、実父の携帯に電話をすると「面会・墓参り以降、研を家族に迎え入れたい気持ちが沸いてきた。ただ、妻(継母)はまだそんな気持ちは持っていないので、まずは研の頑張っているところを妻に見せようと思い、面会・墓参りのことも話した上で、家族で学園さんに行くことにした」と、うれしい言葉をもらった。</p>		
	4	H27年12月20日	<p>入所して1年3ヶ月が経とうとしている中、クリスマス行事に家族で参加。初めて家族と面会する。一時保護所入所から通算すると1年半近く会っていなかったため、弟と異母妹もはじめは人見知りしている表情だったが、すぐに兄(本児)と打ち解け、和気藹々と過ごす。しかし、継母との会話はほとんどない。研、弟、異母妹は別室で過ごしてもらい、その間、実父・継母と当職とで今後のことについて協議する。研の「いつか家に帰りたい」という希望を伝えると、継母はあからさまに怪訝な表情になり、急に席を立ち面会室を出て行った。実父には「もちろん、今すぐ、という話ではなく、まずは施設から高校に通い、面会や外泊を重ねながら可能性をさぐっていきたい」旨を伝えると、実父はそれを了承し、「卒業式には妻を連れて家族で参列する」ことを約束する。</p>		
評価	<p>目標が達成されただけでなく、その面会の際に、実父が本児に謝罪をしてくれたこと、そのあと墓参りに一緒にいったことなど、予想以上の展開になった。また、継母の面会も実現する。しかし、継母の本児に対する拒否感はまだ強いので、家庭復帰に向けた動きは慎重にしていきたい。</p>				
平成28年 1月15日 作成者 佐藤					

子ども育ち・育てプラン(実践シート「家庭」) 【NO. 4】

氏名	そだち 研	生年月日	平成12年 9月15日	児相名 (●●中央)	担当福祉司 担当心理司
長期目標(平成28年7月末くらいまで):平成26年12月26日設定					
・虐待の起こらない家庭にし、本児を迎え入れる。					
短期目標(4番目):平成28年 1月15日設定					
・継母の本児に対する拒否感を軽減していく。 ・継母の子育てに実父が協力する。					
具体的な支援					
・本児の頑張りを多方向(自分自身、実父、施設、児相、学校から継母にアピールしていく)。 ・児相をとおして、家庭復帰を想定したその後の支援(フォロー)を提示し、継母には少しでも安心感をもってもらう。 ・今まで、特例で送付を行っていなかった学園だよりの送付を始める。 ・実父が子育てに協力し、継母の負担を軽くするよう、実父に働きかけをするとともに、相談にのり適切なアドバイスを行う。					
短期目標に関する成長・変化のエピソード	1	<p>H28年 2月23日</p> <p>実父から研究で合格祈願のお守りが届く。実父にお礼の電話をすると、「合格してくれると、妻の見方も変わってくると思う。頑張してほしい。」と研の合格と家庭復帰を願っていた。</p>			
	2	<p>H28年 3月 3日</p> <p>合格発表日。不安な表情で発表を見にいくが、発表時間直後に電話があり「やったあ～、やりました～」と嬉しそうな声で報告がくる。その5分後、実父から電話がきたので、合格を伝えると、電話口でとても喜んでいて、研究で実父からお祝いの電報が届く。</p>			
	3	<p>H28年 3月18日</p> <p>中学校卒業式。家族も参列する。終了後、家族と一緒に看板の前で記念撮影。継母も笑顔で写っていた。その後、高校合格のお祝いも兼ねて、家族全員で外食して、夕方帰ってくる。こんな嬉しそうな表情はひさしぶりだ。研を学園に送った際に、実父と親子未来プランの振り返りを行う。 (追記:後日、継母から職員宛に手紙が届く。「まだまだ、不安の方が大きいですが、研を迎え入れる準備はしなければ、と考えています。もう少し先になると思いますが、研も頑張っているの、私も頑張ります。暴力がない家庭が私の理想です。」と。当職の判断で本児にも読んでもらったところ、「俺もあの人(継母)に手紙書こうかな」と言う。今まで継母のことを「あいつ」と呼んでいたのが、はじめて「あの人」と言った。まだまだ、家庭復帰には時間はかかるが、明るい兆しがみえてきたように思えた。)</p>			
	4	<p>H 年 月 日</p>			
評価	<p>実父だけでなく、継母も本児の頑張りを認めることができるようになってきた。それは何よりも本児が頑張った結果であると思うが、それ以外にも家族(特に継母に対する)のフォローをしっかりと約束したことにあるだろう。卒業式参列後の継母から施設職員への手紙の中で「暴力のない家庭が私の理想です」と書かれており、彼女自身幼少期から虐待を受け、最初の結婚でも夫からDVを受けていたことを考えると、「暴力ありき」の家庭しか今まで知らなかったのかもしれない。その意味においては本児が学園に入所してからの約1年は継母にとっては「平和な家庭」を体得できた貴重な時間であり、それにより今後の「本児の家庭復帰」が「平和を壊すもの」と捉えてしまっていたのかもしれない。であれば、まさしく、このタイミングで実父や継母にも虐待発生のしくみを学習してもらいたい。</p>				
平成28年 4月 5日 作成者 佐藤					

子ども育ち・育てプラン(実践シート「家庭」) 【NO. 5】

氏名	そだち 研	生年月日	平成12年 9月15日	児相名 (●●中央)	担当福祉司
					担当心理司
<p align="center">長期目標(平成28年7月末くらいまで):平成26年12月26日設定</p>					
<p>・虐待の起こらない家庭にし、本児を迎え入れる。</p>					
<p align="center">短期目標(5番目):平成28年 4月 5日設定</p>					
<p>・継母のケア ・実父、継母の暴力に対する認識を変える。</p>					
<p align="center">具体的な支援</p>					
<p>・家庭復帰に向けて、継母の心の揺れ動きが予想されるため、児童家庭支援センター等を活用し、必要があれば医療機関でのカウンセリング等のケアを勧める。 ・実父、継母の暴力に対する認識を変え、それにより、家庭復帰後の虐待防止を図りたい。 ・実父が立てた目標(叩かない叱り方を考える)が達成できるように、実父と定期的に連絡をとり、叱る際の言葉かけの仕方などの相談にのる。</p>					
短期目標に関する成長・変化のエピソード	1	<p align="center">H28年 4月 7日</p> <p>高校入学式。家族で参列。金曜日なので、そのまま、帰宅訓練も兼ねて研を自宅に1泊させた。特に大きな問題なく、「むしろ、弟や妹の面倒を見てくれたり、家事手伝いもしてくれて、非常に助かった」と継母が研に感謝する。</p>			
	2	<p align="center">H 年 月 日</p>			
	3	<p align="center">H 年 月 日</p>			
	4	<p align="center">H 年 月 日</p>			
評価	<p align="right">平成 年 月 日 作成</p>				

子ども育ち・育てプラン(実践シート「地域社会」)【NO. 1】

氏名	そだち 研	生年月日	平成12年 9月15日	児相名 (●●中央)	担当福祉司 担当心理司	
長期目標(平成28年7月末くらいまで):平成26年12月26日設定						
・家族再構築に向けて、地域で本児の家族を見守る体制をつくる。						
短期目標(1番目):平成26年12月26日設定						
・本児の家族に対する支援体制の確認を行う。						
具体的な支援						
<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所と調整し、要保護児童対策地域協議会(要対協)に本児のケースを乗せる。 ・また、本児の実弟・異母妹についても今後虐待のリスクがないかの見守りを地域の関係者をお願いする。 ・今後、義務教育修了時に家庭復帰することになりそうな場合は、前籍中学校にも進路(高校進学や就職)についての情報共有や協力等をあらかじめお願いする。 						
短期目標に関する成長・変化のエピソード	1	<p>H27年 2月 5日</p> <p>要対協の開催。この会議に児童相談所担当CWとケアワーカーが出席し、この4ヶ月の本児の様子を報告するとともに、本児の実弟・異母妹に対して実父・継母からの虐待が心配されるため、家族に対しての見守りを要請した。見回りを行うこととなった児童委員は、本児が小学校卒業時、当該小学校の校長をしていた方で、本児在学中もこの家庭のことを気にかけてくれた方であった。</p>				
	2	<p>H27年 3月10日</p> <p>児相から連絡。「先日児童委員が家庭訪問を行った、これまで定期的に見回りをしているが、当該家庭での虐待等は確認されていない。むしろ、継母も穏やかな表情で弟や妹に接している、とのこと。」児相からも継母に連絡を入れるよう依頼する。</p>				
	3	<p>H27年 8月10日</p> <p>本児が無断外泊をする。児相や警察にも依頼し、自宅近辺や不良仲間と遊んでいた場所等を見回るも見当たらず。(結局8/15に自分で学園に戻ってくる。後になり、無断外泊中の行き先は、地元のゲームセンターに行き遊んだり、コンビニでたばこやライターを万引きしたりして過ごす。最後1日は、お盆の期間に自宅帰省したCのところに顔を出す、「学園に電話するぞ」と言ったらどこかに行った」と、学園に戻ったCの証言で後日分かった。)</p>				
	4	<p>年 月 日</p>				
評価	<p>本児が学園に入所したことで、家庭内での弟や異母妹への虐待は起きていないことが地域の児童委員の見回りから確認がとれている。ちなみに、見回りを行った児童委員は、本児が小学校卒業時、当該小学校の校長をしていた方で、本児在学中もこの家庭のことを気にかけてくれた方であった。</p> <p>なお、本児がつきあっていた地域の不良仲間もそのうち主犯格数名が少年院や児童自立支援施設等に入所しており、事実上活動は消滅した。したがって、本児が無断外泊した際も、彼らとの接触はなかった。</p> <p>義務教育の家庭復帰の可能性があるので、それに備えて要対協での支援の確認はできている。見回りを行った児童委員が今後、家庭復帰する場合のキーパーソンになりそう。</p>					
平成28年 1月20日 作成者 佐藤						

子ども育ち・育てプラン(実践シート「地域社会」)【NO. 2】

氏名	そだち 研	生年月日	平成12年 9月15日	児相名 (●●中央)	担当福祉司
					担当心理司
長期目標(平成28年7月末くらいまで):平成26年12月26日設定					
・家族再構築に向けて、地域で本児の家族を見守る体制をつくる。					
短期目標(2番目):平成28年 1月20日設定					
・本児の家庭復帰に向けての、地域の準備を行う。					
具体的な支援					
・本児が中学校を卒業する3月に、要対協の会議を設ける。 ・かつて本児と不良交友を行っていた仲間の動向を確認する。					
短期目標に関する成長・変化のエピソード	1	H28年 3月20日 ・要対協会議の開催(児相、警察、児童委員、民生委員、地元小中学校、市役所児童福祉主管課、児童家庭支援センター等) 地域の近況の中で、警察から「かつて研君と一緒に不良交友していた仲間の中心的数名が施設から退所してきており、また、不良交友を再開しているという情報を得る。幸い彼らが研君を探しているような動きはないが、今後も彼らの動きは把握していきたい」とのこと。 また、研が過去に万引きした店が加盟している商店街の組合長もメンバーになっており、地域に戻ってくることについては懸念しているようである。 学園側からは、これまでの研の頑張りや、最近の家族との関係修復について、説明し、家庭復帰に向けての地域の協力をお願いした。			
	2	H 年 月 日			
	3	年 月 日			
	4	年 月 日			
評価					
	平成 年 月 日 作成				

子ども育ち・育てプラン(発見ノート)

氏名	そだち 研
----	-------

【NO. 1】

	エピソード	気づき(強み・その子らしさ)
H 2 6 年 1 0 月 4 日	入所して2日目の朝、早速起きてこず、結局当職が起こす。しかし、同部屋の子どもが言うには、「なかなか眠れなかったようで、夜中も起きていた。起床の直前まで布団の中で動いていた。」と言っていた。	不安が強かったこともあってか、全然眠れなかった様子。起床時間に起きていたが、他児が起きるタイミングで一緒に動き出すことができずに、「寝たふり」をして、結局当職に起こされることになってしまった。 学園での生活スタートでもあるので、職員の方から声かけをし、他児にも研に声かけをしてもらうような配慮が必要だった。 (しかし、生活に慣れてくると、熟睡できるようになるが、寝坊も目立ってくる)
H 2 7 年 1 月 2 日	年賀状は唯一、前の中学校の野球部の顧問からであったが、当職に「〇〇先生に年賀状を出したい」と言ってくる。書き方を教えると、時間をかけて丁寧に書いていた。	顧問からの年賀状を机の前に飾り、何度もうれしそうに眺めていた。グローブやバットの絵を下書きしながら丁寧に書く。その姿を見る限り、集中する力は持っている。
1 月 8 日	今日、担任が野球部を紹介し、放課後、緊張しながらも体験入部を行った。キャプテンが声をかけてくれたのがうれしかったのか、帰ってきてから「入部することに決めた」と大きな声で当職に言う。ただ、調子に乗って「下手な奴らばっかだから、すぐにレギュラーになれそう」などと反感を買うような発言もあり、助言をする。また、当職から「野球部は朝練があるんだから、今までのように遅寝遅起きだと、ついていけずすぐクビになってしまうから、しっかりやる気があるのなら今日から早寝早起きに変えること」と言うと「野球のためならやれるかな?」と横を向きながらも了解してくれた。	野球が好きなことを素直に表現してくれる。 また、本人も有言実行で、翌日からきちんと起床時間には起きてくるようになった。
○ 月 ○ 日		
○ 月 ○ 日		

子ども育ち・育てプラン(発見ノート)

氏名	そだち 研
----	-------

【NO. 2】

	エピソード	気づき(強み・そのらしさ)
3 月 2 6 日	<p>春休み中であるが、部活動があるので、毎日登校している。</p> <p>しかし、帰り時間が夕食時間を大幅に回り、夜8時に黙って帰ってくる。心配していたことを伝え、「なぜ遅くなったか」を聞くと、「帰り道で、先週退所したB先輩(一学年上の中3生男児)にばったり会い、誘われてゲームセンターで遊んでいた。ゲームのお金は先輩からおごってもらった。」という。</p> <p>(男児Bは退所後すぐに家出をしており、そのことは職員間では把握していたので)「今、研も頑張ってるんだから、引きずられないでね」と言うと、「実は、『明日もあそぼう』と約束した。お金は先輩がカツアゲしたらしい。どうしたらいい？こんなことしたら俺、部活クビになるよな…」と、逆に相談してくる。</p>	<p>職員に相談をしてきてくれた。好きな野球ができなくなるという不安からであろうが、自分では解決できないと判断して大人を頼ってくれた。</p>
5 月 5 日	<p>「こどもの日」ということで、学園の子どもたちが一堂に集まり、行事を行った。その際、研が小学生の男児をおんぶしている光景を目にする。</p>	<p>小学生に優しくしている光景をみることができた。家に弟がいるため、同じくらいの男児を弟のように思ったのかもしれない。からかうようなこともなく笑顔で接していた。</p>

子ども育ち・育てプラン(発見ノート)

氏名	そだち 研
----	-------

【NO. 3】

	エピソード	気づき(強み・その子らしさ)
9 月 1 日	<p>前日、児相CWが来てくれたにもかかわらず、面接で悪態をついてしまい、その後部屋の布団の中で泣いていたが、今朝は「おはよう」も何も言わなかったものの、時間とおりに登校した。</p>	<p>昨日の件もあり、「研は朝起きてこないのでは?」「あの状況じゃ、『学校なんかもう行かぬえ』っていうんじゃないか?」などと当職も心配していたが、そんな心配をよそに、無言ではあったがきちんと学校に出かけた。 あとで同級生のNに研の様子を聞いたら「えっ? 研? クラスでも友だちと楽しく話してたよ。」と言っていたので、学園の外にちゃんと居場所を作っていることを知って、少し安心した。</p>
9 月 1 5 日	<p>研の15歳の誕生日。夕食時に誕生会を行うと、つまらなそうな態度をとるが、時折照れた表情を浮かべる。</p>	<p>このところ、研のにこやかな表情を園内で見たことがなかったので、誕生会を行うことも嫌がると思ったが、時折照れた表情が見えたので、本人の中では多少うれしさもあるのだと確信している。</p>
9 月 1 6 日	<p>当職が夜勤だったこともあり、就寝後事務室の前に来る。「お母さん(実母)が生きていたときに誕生会をしてくれたことを思い出したら、急に悲しくなってきた。お母さんがまだ生きていたら、俺はこんなことにならなかったのに…。でも、俺がお母さんに迷惑をかけたから、病気がひどくなって死んだのだから、俺も罰を受けないと。それとあいつら(実父と継母)も。」と話す。</p>	<p>昨日の誕生会で、急に実母のことを思い出した。これまで研の中では「お母さんが死んだ原因の中に、自分のが迷惑をかけたから」という思いがあることを、当職に吐露してくれた。 自己否定するようなことばもあったので、実父に連絡をし、研が吐露してくれたことを伝えた上で、何とかして修正してあげたい。</p>

子ども育ち・育てプラン(発見ノート)

氏名	そだち 研
----	-------

【NO. 4】

	エピソード	気づき(強み・その子らしさ)
1 0 月 8 日	<p>実父が面会に来る。目的は、研が誕生日の翌日に言った「実母の死の原因に自分があつたこと」という間違つた認識を訂正するためであり、実父もそれを切り出すまでにはかなり時間を要したが、最後にその話をする。研も聞いたときは驚き、信用しなかったが、やがて表情がゆるむ。その後、自分(実父)の実母に対してのDVについて、研に謝罪すると、研は泣き出し、それにつられるように実父も泣く。そのあと、実母の命日が10月25日であることを実父が初めて研に伝え、と、「墓参りに行きたい」と言いだし、その場で10月27日(日)に実父、研、当職で墓参りに行くことを約束する。</p>	<p>実父に対する恐怖心が原因かもしれないが、実母の死の件をなかなか言い出せなかったが、勇気を振り絞って言うことができた。また、本人の予想とは逆に実父から謝罪のことばが出たため、初めは戸惑いもあったように見えたが、そのあと一気に実父に対する恐怖や怒りが軽減され、泣き出した。実父と一緒に泣いている姿に当職ももらい泣きしてしまつたが、これによりお互いの距離が一気に縮まつた。</p>
1 1 月 1 0 日	<p>・学校で進路の決定がそろそろあるので、今後についての話を事務室で行う。コツコツと勉強している姿も見られるが、なかなか結果につながらないため、高校については「前に言った野球の強い△△高校は学力が追いつかないので、あきらめる。児相CWIに言った『D先輩と同じ高校』はあの時荒れてたので、ただ言っただけ。そのつもりは最初からない。」と言う。では、どこを受けたいのか聞くと、ここ(施設)から片道1時間くらいはかかる隣の市にある××高校の名前を挙げる。当職が「野球はまあまあ強いが、通学時間がかなりあるぞ」と言いながらも、ふと「この高校は、学園から通うより研の家からのほうが近い。もしかしたら研は家に帰りたくなってきたのか?」と思い、それを聞いてみると、「おやじと会ってから(気持ちが)揺れている」と吐露する。</p>	<p>父親との和解で距離が縮まつたことにより、確実に家庭復帰への気持ちが強くなってきている。</p>
1 2 月 2 0 日	<p>入所して1年3ヶ月が経とうとしている中、初めて家族と面会する。一時保護所入所から通算すると1年半近く会っていなかったため、弟と異母妹もはじめは人見知りしている表情だったが、すぐに兄(本兄)と打ち解け、和気藹々と過ごす。しかし、継母との会話はほとんどない。研、弟、異母妹は別室で過ごしてもらい、その間、実父・継母と当職とで今後のことについて協議する。</p>	<p>継母がいないところでは、実父に笑顔で話しかけていたが、継母が姿をみせるとそれすらしない。ただ、当職が実父と継母と協議するため、研が弟と妹を連れて部屋を出て行こうとしたときに、継母に気づかれぬように実父に目で合図を送っているのを見た時に「研はちゃんと夫婦間の関係を分かち合っていて、父を気遣ってるんだ」と感心した。</p>

子ども育ち・育てプラン(発見ノート)

氏名	そだち 研
----	-------

【NO. 5】

	エピソード	気づき(強み・その子らしさ)
1 月 2 7 日	<p>受験まで残り1ヶ月。学校で放課後の補習授業が始まる。担任教諭が研のために準備してくれたような授業で、ほぼマンツーマンで対応していただいた。</p>	<p>昨年秋以降の研の心情の変化、実父との関係、実母の死に対する自身の認識の修正等を野球部監督の担任に話したところ、「何とかして研には希望の高校に合格してほしい」という熱意で始まった経緯がある。 研が本気で頑張ると、周囲の大人たちが「なんとかしてやりたい」と思うようになるのが、研の強みだと思う。</p>
2 月 2 5 日	<p>入試当日。非常に緊張した面持ちで出発する。おととい届いた実父からの合格祈願のお守りを鞆につけていく。 夕方、不安げな表情で帰ってくる。「ダメだったらどうしよう」としきりに職員に聞きにくる。 (追記:翌朝も不安げな表情をしていたので、「やるだけのことはやったんだから、心配するな。朝刊に昨日の試験問題と答えが出ているから一緒に見てみようか」と言って、新聞の試験問題の答えを見たら、予想以上にできていたようで、少しほっとしていた)</p>	<p>学園の高校生から「研、おまえビビリだなあ〜」とからかわれるも、それに返す余裕もないくらい、不安を出している。 (いつものように強気で返してくると思っていた高校生も、研のうろたえに、むしろ安心するように慰めていたくらいであった。)</p>
3 月 3 日	<p>合格発表日。不安な表情で発表を見に行くが、発表時間直後に電話があり「やったあ〜、やりました〜」と嬉しそうな声で報告する。 その5分後、実父から電話がきたので、合格を伝え、電話口でとても喜んでた。</p>	<p>ここ数日、本当に不安で落ち着かなかったのだろう、この日は喜び回って、気がついたら、居間のソファで眠っていた。</p>

わたし（そだち研^{けん}）の育ちプラン

シート1

振り返りシート

○過去の自分はどんな人？

- ・どうでもよかった
- ・大人がうざかった

○今の自分はどんな人？

- ・ちょっとは人の話が聞けるようになった
- ・忘れ物が多い

○これから自分はどんな人になりたい？

- ・忘れ物しない
- ・イライラしたときに当たらない

今の自分のことについて、大人と一緒に振り返りながら確認してみよう！

	よい点（プラスをさらにプラスにしたい点）	気になる点（マイナスをプラスにしたい点）
自分自身のこと （性格とか健康面とか）	・いろいろと出来ること	・人の話を聞いていないと言われる
生活のこと（今の暮らしや人とかかわり）	・朝は起きられるようになってきた	・遅くまで起きてたり、ケンカしたりする
学校や仕事のこと （勉強や進路・就労とか）	・授業は分からないけど受けてる ・高校に行きたい	・進路はあんまり考えたくない
家族のこと	・ない	・おやじなんとかしてほしい あいつもムカつく
趣味や遊び、地域との関わり	・運動	・ない

作成年月日：H27年1月27日／一緒に考えた人：佐藤

わたし（^{けん}そだち研）の育ちプラン①

シート2

なりたい自分になるプラン

1：なりたい自分になりたい！

今の私のなりたい自分（大きな目標）
・野球選手

2：なりたい自分になるために必要なことや大切にすること考えてみよう！

必要なこと・大切にすること（いくつでも大丈夫）
<ul style="list-style-type: none"> ・練習をさぼらない ・監督に反抗しない ・万引きとかで試合に出れないのはやめる

3：毎日の生活で具体的に取ることを考えてみよう！

項目	取り組む内容	振り返り
記入日：H27年1月27日		記入日：H27年7月11日
・朝練行く	早く寝る	できた・もう少し・これから 大人から…がんばったね
自分自身のこと ・人の話を聞く	集中して聞く	できた・もう少し・これから 大人から…聞いたことを忘れちゃうときがあるからノートに書いてもいいかもね。
生活のこと ・早く起きる	早く寝る	できた・もう少し・これから 大人から…朝は起きられているから多少寝るのが遅くても仕方ないかな。
学校や仕事のこと ・部活に毎日出る	とにかく行く	できた・もう少し・これから 大人から…この調子で頑張ろう！
家族のこと ・ない	ない	できた・もう少し・これから 大人から…部活終わったら少しずつ一緒に考えていこう。
趣味や遊び・地域の中で ・万引きしない	万引きしたくなったら我慢する	できた・もう少し・これから 大人から…万引きしなかったね。我慢だけじゃなくて、したくなったら相談してほしいな。

定期的と一緒に振り返りましょう！ 振り返りをもとに、大人も応援します！

作成年月日：H27年1月27日／一緒に考えた人：佐藤

わたし（^{けん}そだち研）の育ちプラン②

シート2

なりたい自分になるプラン

1：なりたい自分になりたい！

今の私のなりたい自分（大きな目標）
・野球選手

2：なりたい自分になるために必要なことや大切にすること考えてみよう！

必要なこと・大切にすること（いくつでも大丈夫）
<ul style="list-style-type: none"> ・野球部の仲間とケンカしない ・あいさつをする ・野球の強い高校に行く

3：毎日の生活で具体的に取り組むことを考えてみよう！

項目	取り組む内容	振り返り
記入日：H27年7月11日		記入日：H27年10月7日
・体力をつける	筋トレ 食べる 寝る	できた・もう少し・これから 大人から…試合までは毎日やってたよね。今はまた目標も変わってきているだろうから、一緒に考えていこう。
自分自身のこと ・人の話を聞く	集中して聞く 忘れそうなことはノートに書く	できた・もう少し・これから 大人から…部活が終わってから出来ない時期もあったけどこれから頑張ろう
生活のこと ・早く寝る	10時には寝る 寄り道しないで帰ってくる	できた・もう少し・これから 大人から…9月に入ってまた出来ているから、このまま続けよう。
学校や仕事のこと ・部活で調子いいこと 言わない	できることしか言わない	できた・もう少し・これから 大人から…大分等身大になってきた気がするよ。Aのありのままでもいいと思う。
家族のこと ・ない	ない	できた・もう少し・これから 大人から…お母さんのこと話してくれてありがとう。今後のことも話していこう。
趣味や遊び・地域の中で ・万引きしない	万引きしたくなったり、誘われたら相談する	できた・もう少し・これから 大人から…声かけたら話せるようになったよね。これからも相談して欲しい。

定期的と一緒に振り返りましょう！ 振り返りをもとに、大人も応援します！

作成年月日：H27年7月11日／一緒に考えた人：佐藤

わたし（^{けん}そだち研）の育ちプラン③

シート2

なりたい自分になるプラン

1：なりたい自分になりたい！

今の私のなりたい自分（大きな目標）
・高校に合格して、ちゃんと卒業する

2：なりたい自分になるために必要なことや大切にすること考えてみよう！

必要なこと・大切にすること（いくつでも大丈夫）
・受験勉強する ・高校でも野球部に入る

3：毎日の生活で具体的に取り組むことを考えてみよう！

項目	取り組む内容	振り返り
記入日：H27年10月2日		記入日：H28年3月5日
・夜とか休みの日に受験勉強する。	毎日2時間勉強する	できた・もう少し・これから 大人から…2時間までは行かなかったけれど、合格できたのはAの頑張りだよ。
自分自身のこと ・人の話を聞く	集中して聞く 忘れそうなことはノートに書く	できた・もう少し・これから 大人から…1年前に比べたら、すごく変化したと思う。この調子で！
生活のこと ・規則正しい生活？	11時には寝る 寄り道しないで帰ってくる	できた・もう少し・これから 大人から…寄り道しなくなったし、勉強があったから少し遅く寝る日もあったけどできた方じゃないかな。
学校や仕事のこと ・授業中に真面目に聞く	ノートをしっかり取る 先生に分からないことは聞く	できた・もう少し・これから 大人から…学校で聞くのが恥ずかしかったら、学園の職員に聞いても大丈夫。
家族のこと ・お母さんのこと知りたい	自分じゃ聞けないから聞いてもらう	できた・もう少し・これから 大人から…お墓参りも行けたね。これからは、今の家族のことを一緒に考えよう。
趣味や遊び・地域の中で ・外で前の仲間と会わない	誘われたら断る 相談する	できた・もう少し・これから 大人から…直接断るのは大変なこともあるよね。断り方もまた練習してみよう。

定期的と一緒に振り返りましょう！ 振り返りをもとに、大人も応援します！

作成年月日：H27年10月2日／一緒に考えた人：佐藤

わたし（^{けん}そだち研）の育ちプラン④

シート2

なりたい自分になるプラン

1：なりたい自分になりたい！

今の私のなりたい自分（大きな目標）
<ul style="list-style-type: none"> ・高校をちゃんと卒業する ・野球をがんばる

2：なりたい自分になるために必要なことや大切にすること考えてみよう！

必要なこと・大切にすること（いくつでも大丈夫）
<ul style="list-style-type: none"> ・高校でも野球部に入る ・早寝早起き

3：毎日の生活で具体的に取り組むことを考えてみよう！

項目	取り組む内容	振り返り
記入日：H28年3月5日		記入日：H 年 月 日
・毎日ちゃんと起きて学校行く	目覚ましで起きる 11時には寝る 寄り道しないで帰ってくる	できた・もう少し・これから 大人から…
自分自身のこと ・人の話を聞く	ムカついても聞く 忘れそうなことはノートに書く	できた・もう少し・これから 大人から…
生活のこと ・弁当を作るのを手伝う	一緒に弁当を作って、ちょっと料理くらいできるようにする	できた・もう少し・これから 大人から…
学校や仕事のこと ・悪いことしない友達作る	部活の仲間とかで友達作る	できた・もう少し・これから 大人から…
家族のこと ・お父さんともう少しはなせたらいい	高校行ったらもう少し家族と会う	できた・もう少し・これから 大人から…
趣味や遊び・地域の中で ・外で仲間と会わない	誘われたら断る 相談する	できた・もう少し・これから 大人から…

定期的と一緒に振り返りましょう！ 振り返りをもとに、大人も応援します！

作成年月日：H28年3月5日／一緒に考えた人：佐藤

親子未来プラン①

記入日：平成27年12月20日

お子さんの名前：そだち研^{けん} 生年月日：平成12年9月15日（15才）

(1) 最近の状況

お子さんの様子

施設の先生の話では、受験に向けて頑張っている。亡くなった母親のことを気にしていて、この間一緒に墓参りに行ったときは少し泣いていた。

ご家族の様子

自分は土木作業の仕事で忙しいので、子育ては妻に任せている。妻は家にいるが、二人の子どもの子育てで疲れている。武はやんちゃが出てきて、妻の言うことを聞かないこともあるので、たまに私がきつく叱っている。下の子はおとなしく、女の子なので妻も育てやすいと言っている。

(2) 家族について

これからなりたい家族

自分としては、研を引き取って一緒に暮らしたいが、妻は今も嫌がっているのが難しい。

これまでの家族

子育ては妻に任せっきりだった。研は言うことを聞かないことが多かったので、厳しくしつけた。研が問題を起こすと妻をきつく責めることがあった。

今の家族

研がいたときに比べれば落ち着いている。子育ては妻に任せている。

お話をもらった担当者： 佐藤

記入日：平成27年12月20日

(3) 保護者の方の思いや意向

お名前： そだち きわむ 究

子どもについての思いや意向

高校を卒業して就職して欲しい
問題を起こさないで欲しい

ご自身について（自己理解）

仕事を言い訳にして子育てを任せっきりだった
叱るときが厳しすぎたかもしれない

今の生活についての思い

今は落ち着いているのでそのまま続くといいと思う

将来の希望をお聞かせ下さい

妻の研に対する気持ちが変わったり、研がもう少し成長したら一緒に暮ら
せたらいいと思う

担当者： 佐藤

(4) 「仲直り」に向けてのプランニング

よりよい親子関係の形成に向けて作成しましょう。

この用紙は、目標に向かってどのように具体的に取り組むかを計画し振り返るために活用します。定期的に振り返り、無理のないようにプランの変更も含めて検討し、幸せな親子生活が送れるよう施設・児童相談所などが支援します。

お名前：

作成日：平成27年12月20日

	目標	具体的取り組み	振り返り
1	妻が研を受け入れる	面会をして、研の変わった姿を見る機会を増やす。妻の話を聞く。	今日の卒業式で研が大人になったと妻が喜んでいて、来てくれてありがとうという言葉に感動していた。少しは拒否的な感じがなくなったかもしれない。 予定 3月18日 (済チェック欄 <input checked="" type="checkbox"/>)
2	妻の子育てを手伝う	休みの日は子どもと遊んだり、家事の手伝いをする。	家族で出かけたり、洗い物など手伝った。家族のなかで笑顔が増えた。 予定 3月18日 (済チェック欄 <input checked="" type="checkbox"/>)
3			予定 月 日 (済チェック欄 <input type="checkbox"/>)

担当者： 佐藤

親子未来プラン②

記入日：平成28年 3月18日

お子さんの名前：そだち研^{けん} 生年月日：平成12年9月15日（15才）

(1) 最近の状況

お子さんの様子

高校に合格した。家に近い高校にしたのは、いつか家に帰りたと思っているからと聞いた。施設では落ち着いて生活している。

ご家族の様子

仕事がない日は、少し武と遊んだりしている。妻は研の卒業式の姿を見て、研の成長した様子を喜んでいて、研が小さい頃は、かわいがっていたのでそれを思い出したのかもしれない。相変わらず子育てに疲れているが、私もあまり厳しく叱らないようにしているので、家族で笑うときが増えた。

(2) 家族について

これからなりたい家族

自分としては、研を引き取って一緒に暮らしたいが、妻の気持ちはまだ難しい。今のように笑いがある家族。研も一緒にいられる家族。

これまでの家族

自分がほとんど子育てを任せてきたので、妻に任せっきりだった。研は言うことを聞かないことが多かったので、厳しくしつけた。研が問題を起こすと妻をきつく責めることがあった。

今の家族

少し4人での時間ができた。武に手がかかるが、男の子はそんなもんだと話している。私もやんちゃだった。

お話をもらった担当者： 佐藤

記入日：平成28年 3月18日

(4) 保護者の方の思いや意向

お名前： そだち きわむ 究

子どもについての思いや意向

高校を卒業して就職して欲しい
問題を起こさないで欲しい
妻と普通に話せるようになったらいい

ご自身について（自己理解）

家族と過ごす時間を持つようにしたい
厳しくしないと甘やかしている感じがする

今の生活についての思い

この間、夕飯を食べているときに研の話が武から出た。今まではそんなことはなかった。妻の顔を見たが、前ほどは嫌な顔をしていなかったなので、また会いに行こうと答えた。少し変わってきた気がする。

将来の希望をお聞かせ下さい

妻の研に対する気持ちが変わったり、研がもう少し成長したら一緒に暮らせたらいと思う。

担当者： 佐藤

(4) 「仲直り」に向けてのプランニング
よりよい親子関係の形成に向けて作成しましょう。

この用紙は、目標に向かってどのように具体的に取り組むかを計画し振り返るために活用します。定期的に振り返り、無理のないようにプランの変更も含めて検討し、幸せな親子生活が送れるよう施設・児童相談所などが支援します。

お名前：

作成日：平成28年 3月18日

	目標	具体的取り組み	振り返り
1	妻が研を受け入れる	面会や外出を続けて研と妻の会える機会を増やす。 妻の話を聞く。 研が帰ってくることについて妻と話してみる。	予定 月 日 (済チェック欄 <input checked="" type="checkbox"/>)
2	妻の子育てを手伝う	休みの日は子どもと遊んだり、家事の手伝いをする ことを続ける。	予定 月 日 (済チェック欄 <input checked="" type="checkbox"/>)
3	叩かない叱り方を考える	厳しくしなくてはと思ったときに、叩かずに言葉で言う。ひどい言葉になりすぎないように気をつける。	予定 月 日 (済チェック欄 <input type="checkbox"/>)

担当者： 佐藤

